日本はスシ詰教育

進歩した中国教育機関

熊本県経済文化訪中使節団の一員として七月三十一日羽田を出発し九月七日無事帰着した、三鉱労組政治局員、熊本県会議員、酒井善為氏は帰国報告で大童であるが、同じ政治局員、荒尾市教育委員、藤末克己氏に、みいけ特派員として、中国の教育について一問一答を試みてもらつた。

（聞く人＝酒井政治局員　答える人＝藤末政治局員）

一教室十名少い

問　早速ですが、今日は「みいけ」編集部から私が教育委員をやつているので、中国の教育について聞いてこいとのことで伺つたのですが。

答　ぢやあ今日は「みいけ」の特派員ですな、よしきた。（酒井さんは大型手帳をとり出した）

中国の教育の目的からいきますか。

問　それよりも、実は私達父兄の悩みがどう違うかから入つてもらつて、順々に聞きたいのですが、第一に、すし詰め教育の問題だが、熊本県の場合は、最高六十一名で東大の先生が、これは映画館の満員と同じで、ガスなどが室内にこもり不健康で、教育効果が駄目だ。それに、伝染病（感冒）などの伝染がひどい、など発表している。

答　日本が明治以来営々と築いた八〇年の歴史と、解放八年の中国の事情では、ただ平面的にくらべては誤解が起こる。あの人間扱いにされなかつた八年前の苦力達の姿を頭に描いて、それから私の話しをきいていただきたい。

問　それでは、その苦力達の息子や娘は、どんなにやつていますか。

答　一教室当り平均で中学校二十六名、小学校三十三名で、最高は中学校、初等科（三年）五十名、中等科（三年）四十名、小学校五十名ということです。

問　ぢや日本より十名程度は少いわけですね。貴男も承知のように荒尾当りの進んだPTA関係者で、教育の欠陥の最大のものの一つとして、すし詰め教室解消に立ちあがりつつありますねところで学校建築はどうですか

政府が教育に本腰

答　きれいな煉瓦造りで、頑丈ですね。もちろん大陸の建築は前から頑丈なところはあつたが、清潔で、教室不足など、父兄が声を上げる前に、政府が懸命に作つている。日本の政府のように宣伝だけで、実際は父兄（市）の財布で解決するというやり方とくらべると、比較にならんようですね。

問　その父兄の負担のことですが日本では、PTA会費、図書館費、中学、高校になると、もう家計の負担も少さいものではないが。

答　これについては、金のない人は殆んど無料、遠い所からは寄宿舎に入るが、これらの人達の一切の費用が日本円で年八〇〇円から二〇〇〇円程度。

問　大学になると、小遣までくれるというんですが。

答　嘘だろうと聞きなおしたが、嘘ぢやないようです。ちよつと日本では思いもよらん話です。もう少し嘘のような本当の話をしましよう。というのは日本でも農村では農繁期には子供達が手伝うため、家庭では貴重な労働力として短縮授業とか、休校をやつているが、中国でもこの点は同じで、子供のかせぐ賃金を人民助学金という名前で家庭に支給する。

実はこの人民助学金の制度は農民だけでなく、その子供の労働力がないと生活ができないような家庭では誰れにでも支給されている。

汚職教育の日本

問　中国の道徳教育、不良児はどうなんです。

答　社会環境が不良なんか作れないんです。……子供達が実に明朗活発、日本の高校生なんか妙に恥かしがつて、もぢもぢしているが、彼等は胸を張つて握手をしにくるんです。……日本の道徳は誰れが破壊しているんですか、保守政治家、資本家は、汚職疑獄は常習犯で、摘発されそうになると、指揮権とかなんとかいつて押える。バクチは公認、売春、裸踊り、人殺しの映画、ケセラセラの唄、もつとある、貧乏、就職難、これだけ悪条件が揃えば、子供は大低ダラクしますね。

日本の子供は加害者でなくて、被害者です。資本という犯罪者のための日本の支配者達が子供達をダラクさせていて全部教育が悪い、日教組が悪いといつている。

日教組は戦争屋が打ちこわす子供達を一生懸命に守つて育てているんです。さつきもいつた通り、中国の十代の瞳は希望そのもので、彼等はダラクしようにもダラクできない。

大体青少年というものは本来正直で正義感が強くて、理想主義者なんですね。日本でも中国でもその点ちつとも違わない。悪い子供なんて、本当はいないですよ。中国の子供の幸福を見たとき、日本の資本主義政治の暗さと犯罪性に、心底から憤りと悲痛を覚えました。

酒井さんはここで本当に社会主義者として労組指導者として、資本主義への怒りが滲み出ていた。話は文盲退治、少数民族の教育、教職員の待遇、研修、労働者の教育（大学へ行くなど）など、まだ続くわけだが、いずれ後日、報告文を作りたいと考えてこの稿を終る。

三川外来の
西川さんへ

無神仰の家は私の家ばかりみたいであるとおつしやる貴女は、けつして無神仰者ではない。ご主人の手作りの天照大神の神ダナに毎朝手を合せ無病息災を祈りつづけてゆこうとする貴女は、永遠に神の存在を肯定して祈る姿でしようと思う。神は強いて入信を進めない無言であり無口である無教。でさしつかえない。教とは便宜上の言葉であつておつとめばかりではつまらぬ拝み信神は自己的に落ち入りやすい。天の理を私たちは身をもつて行うことである。

信者といわれなくても何らさしつかえない。ただ、正しい道理を聞き、信じ、行うことである。

何卒、題目をとなえるだけの信者にならずに、天と地、夫と妻、親と子、他人と自分時けば種がでる。一切のつながりの中に、天の理の中に生き、生かしていただいていることを思い、当然成つてきた理に、自分を反省し、感謝と喜びの心を朝夕ささやかな神様にお礼を申し上げれば現在の貴女は十分だと思う

信仰したらケガをしないとは考えない。ただ、人間として正しく生きたいと念願している。なかなかむづかしいが楽しいものである。

宗教はもたずとも信者以上にすぐれた人もある。貴女も正しく生きて下さい。行いの人になりましようね。

（マツモトセイコ）

雨の中の敢闘譜

主婦会だけで体育祭（四山）

四山支部主婦会では今年の五月、福岡市の朝日ページエントを見て自分達の手で体育祭を行うことが計画され、秋空の曇天の中で九月二十四日午前九時より四山グラウンドで体育祭を開催した。この日は前日の雨で、朝早くよりグラウンドの整備、役員総出の準備、グラウンドには主婦会の人々が陣取り大島連合分会の体操にはじまり、五〇米競走、ホーケル、幸運競走、つな引き、ダルマ運び一〇〇米競走、パン食い、百足競走、分会別の遊技、分会対抗リレーと盛沢山のプログラムで体育祭が行われ、声援と爆笑のうちにのびのびした主婦会の体育祭を秋一日にくりひろげた。しかし午後より小雨の降る中で続けられた体育祭であり、来賓の人からの感激もあつた。

二、三体育祭についての主婦の人の声は

●本当によい体育祭でした。年中行事として今後も続けてもらいたいですねエ。

●せつかくの体育祭に雨が途中で降りだしたので残念でした。でも皆んな一生懸命分会遊技をされるのを見て、私は感激させられ、つい涙が出ました。皆んなが力を合せて行えばこんな立派な体育祭が主婦会の力でできるのですねえ。

●私は外来ですが本日の体育祭。見て、四山に夫が勤めておりますがめつたに来ません。ばつてん皆んながこんなことで集まることは本当によかことですばい

●役員の人が進行に競技の準備にこまごまとよくされるの見、本当によく手が行き届くなと感心しました。

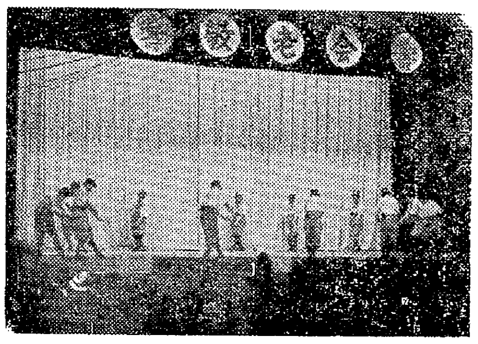
分会対抗リレーは十七分会の対抗で、応援団までくり出して声援、成績は、

一等　福四分会、二等　大島分会、三等　福二分会、四等　大平分会、五等　大島二分会、六等　山吹分会

長生きばせんなん

本所主婦会が敬老会開く

本所支部主婦会の支部行事として行はれた敬老会は二十日市民会館で盛大に行われた。



その日招待された長寿者は三百名貸切バス二台とニユースカーに迎えられ開会の十時までにはほとんどの出席があつた。墨田副支部長及び、板井主婦会支部長のお祝の挨拶の後各分会毎の踊りや劇を披露した。素人ばなれした演技に会場は感嘆の声がたえ間なく中食の接待にいそがしい主婦会の人達と共になごやかな一日を過された。なお本所コーラスと楽団は、職場の休憩時間を利用して一役買い、老人向な歌をおくり色彩を添えた今回の催しは外来主婦会にとつては初めての活動であり各地域に対するアツピールが大で主婦会組織に対する認識を深めることに役立つた。今後の活動に期待される。帰りの送りのバスの中で荒尾のAさんとBさんは「今日はいろいろ見せてもらつたのい」「長生きはしとかなんばい」とうれしそうであつた。

（本所発）

童心になつた老人

飛入が出た四山敬老会

九月十五日は「としよりの日」この日はとしよりを大事にする日である。

四山主婦会では数年前までは分会毎に行つて居りましたが、統一して行つた方がよかろう、又一日ゆつくり老人同志の昔話のつれづれをかたるのには同一場所に集る事に計画され、九月十九日と二十日の二班に別れ高瀬保養所で出席者一五九名の多数の参加で行われた保養所にて中食、入浴後お茶菓子が出てお神酒を用意した。この日は敬老会にふさわしい楽しい雰囲気になり、老人達同志で若き日の思い出話や唄や踊りも飛び出し、隣室にきていた団体の人もつい楽しくにぎわう演芸についつられ、飛入まであり、やんやのかつさいがあり、大変にぎわつた。敬老者の人々の声を聞く。

●年に一回こんなに楽しく話す機会を作つてもらい又ゆつくり入浴出来て本当に有難い。

●老人になると行きたくとも仲々旅行に行けない。自動車で近くまで送り迎えしてもらえるので本日を楽しみにして居りました集合は八時でしたが七時ごろよりじつとしておれませんでした

●私は主婦〇役員の人が話の中でいわれたように長く生きようと思います。然し昨年参加された人が今年身体の具合が悪くて参加されなかつた人がある事は気の毒であり、又残念だと思い、みんなが長く生きる事を祈つております。

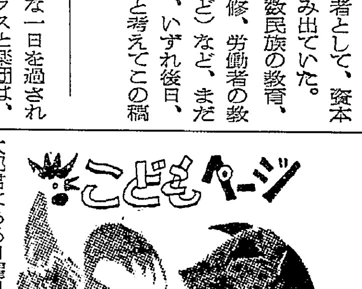
としみじみいわれた。（四山発）

続々敬老会開く

三川支部をはじめとする緑ガ丘連合主婦会は二十五日、緑ガ丘講堂に浪曲立花右近一行を招き、午前十時より一三〇名余の老人を招き敬老会を催した。緑ガ丘在住の全支部が一本となつて、老人を心から慰めることができたのは全く有意義で大変喜ばれた。

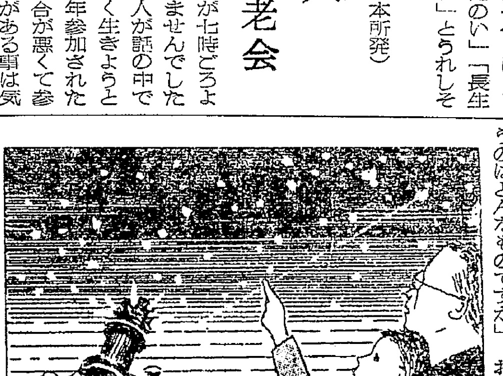
× ×

三川支部大谷分会の主婦会も、二十五日共楽座に四十名余の老人を招き観劇を行い、帰りにおみやげとして座布団を贈り、敬老会を有意義なものにした。（三川発）



プラネタリウムのおはなし

太郎君はある日曜日、お父さんといつしよにプラネタリウム見学にゆきました。渋谷の駅でおりると向うの八階建のビル屋上にバカでかいボールを真半分にしたような大きなドームがつきでていました。「あれがプラネタリウムの天井だよ」とお父さんがおしえてくれました。太郎「プラネタリウムというのはどんなものですか」。お父さん「プラネタリウムというのは〃わく星（太陽のまわりをまわつている星）をあらわす機械〃という意味だが、じつさいはわく星だけでなく、こう星（天球上でおたがいの位置をほとんどかえない星）もうつすのだよ。だから〃星座投影機（せいざとうえいき）〃とでもいえばいいだろうね」。ドームの中に入ると、高さ二十メートル、直径二十メートルの丸天井はまつ暗で、客席のまん中に米つきバッタのようなかつこうをした機械がすわつています。これが星座をうつす機械で、半球の天井に、約九千コの星がほんとうの夜空そのままに幻灯式（げんとうしき）にうつしだされるのです。



プラネタリウムの水野良平先生にきいたら、この機械はドイツできたもので、一台で七千万円もするのだそうです。

機械の頭とお尻にせんすい服の頭のような部分があります。これが星座投影機で、頭の方が北半球のこう星を、お尻の方が南半球のこう星をうつします。このぶぶんはそれぞれ約八十センチ、その中に十六コの目の玉のように小さな幻灯機がとりつけられているのです。機械全体の大きさは約三メートル半、機械のいろいろな部分に太陽や月や火星や木星などのわく星をうつす機械があります。

この機械をうごかすのは、操作盤（そうさばん）についている約四十コのスイッチを使い、それによつて、北半球の星も、南半球の星も、また一万年昔も一万年後の星も、自由自在にうつし出すことができるのです。

客席がだんだん暗くなつてきました。夕日が西に入ると一番星二番星がかがやき、暗くなるにつれて星の数はふえ、やがて夜空にはいつぱいの星が見えてきました。

ヒシヤク形をした北斗七星（ほくとしちせい＝大くま座）はすぐ見つかりました。北極星（ほつきよくせい）もわかりました。Wの字のカシオペア座も、天の川もあざやかです。

太郎君は水野先生のやさしい星の話をききながら「星つてふしぎだなア」「火星にも人間がいるのかなア」「宇宙旅行（うちゆうりよこう）のロケツトであの星まで行つてみたいなア」などと、心は夜空高く星までとんでいきました。そのうち東の空がポツとうす明るくなつてきました。「おや、もう朝か」太郎君はハツとわれにかえりました。プラネタリウムの中にいたこともいつのまにか忘れてしまつたのです。